
ヒーローと呼ばれて

子鉄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒーローと呼ばれて

【Zコード】

Z2444C

【作者名】

子鉄

【あらすじ】

ヒーローと呼ばれた男の半生を綴った物語。

(前書き)

あなたにとってヒーローとは誰ですか?
あなたにとってヒーローとは何ですか?
私ってなんですか?
私、毎日はん食べましたか?

『薄汚いダーメツ、これで終わりだつファイナルアタツク！』

『せやあああああつー』

『ふり、あの辻で蹉ねともな』

今田もミラクル兄弟のおかげで地球に平和が訪れた。
ありがとうミラクル兄弟、ほんまにありがとう。

【次回】最強の敵復活。見ない子はダーダよつ！

『いやー、おつかれっす。師匠今日もいいやられっぷりでしたね』

『うん、ああ、いいんだけど、ダーハないんじゃないの?』

『え？でも、盛り上がり的な事を考えたつていうのがあります・・』

『台本に無かつたよねえ? うちの子も8才だから、そういうところ見てんだわ』

『あ、しつ、師匠の家庭までは考えてなかつたつていうのはあります

す、はい』

『うんうん、いいよ、いいけども、最後ツバ吐いたね？これ家で洗う嫁がどう思つよ、え？どう思つよおおおつー。』

『・・・いや、ちょっと、そこら辺のけじめの部分が自分でもよく分かつてなかつた部分はあります、はい』

『おい兄ちゃん、あと最後の戦闘の時私の顔踏んでくれちゃつたね？あ？こつちは姪が来月嫁に行くんだわ、ああ、行くんだわっ！』

『自分・・・』

『帰れつ、帰れえええつー！うあああああつ、げほっげほっ』

当時の私は、ヒーロー戦隊ミラクル兄弟の主役に抜擢されたこともあり、有頂天になっていたのかもしれない。

師匠やご家族のことなど全く考えていなかつたのだ。

しかし、ヒーローである私にどうすることができるかわづ。自分一人で判断のつくことではなかつた。

私は荷物をまとめるとスタジオを後にした。

街は初夏の生温い空氣に包まれ、力強い光が緑をキラキラと輝かせている。

お陽様は元気に笑いながら僕たちを見守つていた。

私が進むべきは右か左か、道行く人々は何の迷いもなくその歩を進めていた。

私の演技は間違っているのか、進む道が間違っているのか。

ふと見ると、少年がミラクル兄弟じっこをしていた。

『えいひ、参ったか！ヒーローは負けないぞ』

大きな夢を持った少年は、懸命に地球を守ろうと人形同士を闘わせている。

強烈なビンタを食らった気持ちだつた。

純粹な目をした少年は、ヒーローを待つてているんだ。

次の日目が覚めると色々な思いはどこかに消えていて、とても清々しい気分だつた。

自分は自分で決めた道をまっすぐに歩んでいくんだ。

『師匠、昨日はすいませんでした。自分、いちから勉強させていただきます』

スタジオ入りすると、まず師匠に元気よくあいさつし、昨日の非礼を詫びた。

『もひ、ええんや』

そう言つと日本を背負つてきた大俳優は笑いながら遠くを見た。

師匠は許してくれた。

こんなどうしようもない私を許してくれた。

もつ負けるわけにはいかない。子供達が待っている。

大俳優に対するリスペクトの精神、父への思い、母への感謝ここに
賛美。

マイコーフォンチヒック、ワンツーヨー！

そんな気持ちだった。

父さん、母さん、そして師匠、新しい自分を見てください。

『それでは参ります。3・2・1・スタート…』

『でたな大王…やつつけいやるつ』

『げーへつへつ

『この氣持ち悪いブタ野郎つーべつ

『え？・・・』

『嫁に行くおまえの姪はいつも鼻毛が出でてるつー』

私にもう迷いは無かつた。
子供達が待っているんだ。
子供たちが・・・・・

『いや、あれ?ちよつと・・・・』

『へりえつ、おまえが偉そうに乗つてくるベンツは実はレンタカーだチラップー』

『うあああつ、せられた』

『ひるかこつー嫁は八百屋のおやじと浮氣してこむキックー』

『・・・・えつ?こや、せつせられた、完全にせられたつ』

『だまれつー女装して夜の街を歩くなパンチー』

『まだまだつ、お前はかづら・・・』

ピ一

番組の途中ですがここで臨時のコースをお伝えします。

只今、生放送中に一部不適切な映像が流れたことを深くお詫びいたします。

では次のコースです。

カルガモの家族が元気よく橋を渡りました。

可愛らしいですね。

食べちゃいたいです。

なつ、なんばん、鴨南蛮だよ。

でつ、では一旦CMに入れます。

いつでもどこでもドンドンチャン騒がせー。

飲んだら乗るつ！

乗るなら飲もう！

みんなで乗ろうぜ!! 一つ葉タクシー

* * * * *

走りますか？
まっすぐな道を

覚えてますか？

あの人の笑顔を

君のために僕は安全運転をする

FEELING TOGETHER KEISHICHO

IJ-1までの放送は警視庁の提供でお送りしました。

その後、番組は打ち切られ、私はスタジオを摘み出された。
職を失い路頭に迷ったのだ。

全て幻想だつたんだ。

ヒーローなんかじゃない、ブタ野郎は俺だつたんだ。

『あはつ、あははははつ！』

それからは何もかもが無茶苦茶だつた。

きつとショックで頭の線が切れていたのである。気が付いた時は病院のベッドの上だった。

一面を白い壁に囲まれた部屋で、手足を縛られ口には雑巾が詰め込まれていた。

カレンダーを見ればあの日から三年の月日が経過していた。何があつたんだ、何が・・・

私は早速書類にサインをし、保証金300万円を納め外に出ることを許された。

とんだヒーローである。

外に出るともう夕暮れ時だつた。

ゆっくり傾いた夕焼けが、静かに流れる川に映しだされている。

重なつて映る自分は、誇らしげに輝く真っ赤な太陽を見ることができずに目を逸らした。すぐ傍では小さな鴨の親子が東から西に仲良く流れしていく。

ああ、自分はどこに流れていくのか。

泥々の少年達が無心に走り回っていた。

あの日いつまでも夢中になつて追い掛けた白いボールは、自分の未来や希望の象徴だったのであろう。

いつからか走ることをやめた少年は今、何も考えずに走り続ける少年達を見て涙がでた。

携帯電話を取り出し、記憶を頼りにボタンを押すと、懐かしい声が聞こえてくる。

『内ひやん、俺』

懐かしい声はいつもと変わる事無く自分を包んでくれた。

自分が自分であることの証明を与えてくれるその声は、自分が世界と向き合つ勇気を与えてくれた。

ふと転がってきたボールを少年に投げ返すと、笑って親指を立てた。

泣いてる暇なんかない。

消え行く夕日は強烈に光り、こんな自分を笑つて居ようがだった。今はまだ情けなくて弱い自分も、いつか壁をぶっこわして突き進むんだ。

行つた道の先に何があるか分からぬよ、でも行かなきゃいけない。行かなきゃ。

『はい、OKです！』

『これですべてのシーンが終わりました、お疲れさまです』

こうして私の自伝的映画はクラシックアップを迎えた。

今私は俳優として、監督として様々な方面でがんばっている。
こんな自分でいられるのはあの時、壁を
破りうと思つたおかげだらう。

ありがと父さん、ありがと母さん、ありがとお教えてくれたみんな。

そして、ありがとう自分自身。

そう、今なにより自分自身に感謝したい。

ありがとつと言いたい、頑張ったと言いたい、そして、抱いてと言
われたい。

もてたいんだわ、こつちば。

50冊の日記をそつ締め括り、静かに本を閉じた。

思えば自分の人生、これでよかつたのだろうか。

あんなこともあった、こんなこともあった。

あの娘を抱いた夜もあった。二万円を払ったのだ。

嫌な事だけじゃない、楽しいことだけじゃない、全部が全部ひっく
るめて自分なんだ。
自分で素敵だ。

心の中でさう綴ると、ピンクのネグリジエを脱いで床についた。

(後書き)

感想をお待ち申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2444c/>

ヒーローと呼ばれて

2010年10月17日07時17分発行